

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200108		
法人名	有限会社 響		
事業所名	グループホーム ゆらり1		
所在地	和歌山県田辺市上の山1丁目19番23号		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3092200108-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなで支えあい、ひとり一人が役割をもち、協力し合うことで生活する意欲を引き出し、その人が生き生きと暮らせるようつとめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みんなで支えあい、一人ひとりが役割をもち、協力しあうことで意欲を引き出します。」と「その人がそのらしく、いきいきと暮らせるように園芸や家事など今まで行ってきたことを維持できるように支援します」とユニット毎に理念を掲げ、一人ひとりに合わせて日々のケアを実践しています。授産施設から来るパンの販売では個々の利用者が選んで買える自己決定の場を大切にしたり、読書の好きな方が本屋へ出かける楽しみを持ってもらえる支援や毎日写経ができる環境作りや見守りがその方の生きがいに繋がるなど、自由な生活を支えていけるように取り組んでいます。管理者は、職員の思いや希望を聞き仕事への士気を高め働きやすい職場環境を整え、看取りの支援については市と相談をしたり、外部研修や講師を招いて学ぶ機会を作り、より質の高いサービスの提供に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である、みんなで支えあい、一人一人が役割を持ち、協力し合う事で生きる意欲を引き出し、その人がその人らしく生き生きと暮らせるように努めている。	ユニット毎に作った理念には、一人ひとりが役割を持ち、その人らしく生き生きと暮らして欲しいとの思いが込められています。職員は、日々のケアがその人に合わせて提供されているか、月1回業務改善会議などで振り返りながら理念に沿ったケアを実践しています。新人採用時に理念について説明しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が大正琴の演奏にきてくれます。散歩時など近所のかたと挨拶をします。	町内会に加入し、広報誌が届き地域の情報を得て、文化会館の書道展や展示会を見に行っています。地域のボランティアが着物を着て舞踊を披露しにきたり、授産施設から毎週パン販売に立ち寄るなど、地域との交流が図られています。近隣住民がホームのゴミ置き場を利用したり、月見のススキをもらうなど気軽に交流し合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた場合には、実践で積み上げた認知症の人への理解に対しての、アドバイスやケア方法等についてわかりやすく説明できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや、サービスの状況などを報告し、会議の中で出た意見やアドバイスを取り入れ、サービス向上につなげている。	会議は町内会長や家族、地域包括支援センター職員が参加し、2カ月に1回開催しています。行事やホームの現状、市の監査結果の報告などを行いながら意見交換しています。生き物で癒しを取り入れて欲しいとの要望や感染症予防対策についての意見などが出され、メダカを飼ったり、玄関にマスクやうがいを用意するなど、出された意見は運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室状況など、情報を密に取り合いながら、協力体制を整えている。	運営推進会議の案内や議事録を届け、ホームの現状を伝えています。分からない事や困った事は都度出向き、市の担当者に相談しています。また、市から研修案内が届き、研修に参加した職員が朝礼で伝達しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・外部研修などから、身体拘束についての理解、認識を深め、常に職員間で介助方法について検討しながら身体拘束をしないケアを提供できるよう努めている。	身体拘束について法人の研修に管理者が参加し、資料を用いてホームの全体会議で伝達研修し、周知しています。言葉で行動を制止せず、側に寄り添い見守る対応を心掛けています。玄関やフロアは開錠し、音センサーで安全に配慮し、外へ行かれない方には付き添い閉塞感のないように努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・介護研修等から高齢者虐待についての理解、認識、自分達の役割を周知し、利用者の心と身体が守られるよう努めている。		

グループホーム ゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会と連携し、制度を活用し、職員にも周知、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の方に不明な点が残らない様に十分な説明や話し合いを行い、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、家族の来訪時また管理者や職員から家族の方へ報告、相談を行った際に得た情報を反映するよう努めている。	運営推進会議や面会時、介護計画の更新時等、来訪される時に意見や要望を聞いています。また「ゆらり通信」の発行や電話で利用者の様子を伝えて意見を聞いています。出された意見より土曜、日曜日の面会時にも利用料の支払いが出来るようにするなど、出された意見は検討して運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見が言えるよう、明るい環境で業務が遂行できる様、努力してます。	管理者は、職員が何でも言いやすいような雰囲気作りを大切に、職員の思いや意向を聞いています。有給休暇の希望や資格習得に向けた支援を積極的に行ない、働きやすい環境作りに取り組んでいます。日々の申し送り時に利用者の対応方法についてなどの意見が出され、皆で話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職場の環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議などで各自の力量資質をはかり、向上に向けて努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先などでの他事行書の職員との交流や、他事業所職員との意見交流がもてるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、本人や家族の困っている事、不安な事、今後の生活についての要望等を十分に聞けるような場を持ち、入所後安心して説明やサービス提供を行うことで、信頼関係を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話を十分に聞く機会を設け、家族の思いを受け止め、サービス提供に反映させることで、信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様からの要望があれば、努めてサービスに導入していくことはもちろん、必要と思われるサービスを導入する際には、ご家族様に事前にお伝えするなど相互理解をもてるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じた役割を見出してもらい、職員と共に生活をしている環境づくりをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご連絡させてもらい、共に利用者を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その人がこれまで利用された店での利用を必要とされた場合、積極的にそこに出向き買い物をされたりするなど支援に努めている。	以前住んでいた町へ行って買い物したり、馴染みの美容院へ出かける際は職員が付き添っています。親戚の方や洋裁を習いに来ていた教え子の来訪時は、居室へ案内し寛いでもらえるよう配慮しています。法事や墓参り、自宅への外出や外泊は家族が対応し、職員はその際の準備など行うなど、これまでの人や場所との関係が継続出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態や性格、感情の変化を理解した上で利用者同士が係わり合い、支えあえる関係関係を持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	持病の悪化による入院や他の施設への入所によりサービス終了になる事があっても、家族様と偶然の出会いがあれば近況を伺うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向についてその方からの言葉だけでなく、生活歴や家族からの情報を含めた上で、できる限り本人らしい暮らしを送ってもらえるよう努めている。	元ケアマネジャーと家族から趣味や生活歴、意向など聞き、アセスメントシートに記入して基本情報として把握しています。日々関わる中で会話や表情から気付いた事など業務日誌に記載し、表現の困難な方は家族から聞いたり、表情や声のトーンから思いを汲み取るようにして意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人に聞き、また日常的にも本人とのコミュニケーションの中で情報を収集できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方との日常的な関わりの中で、心身状態や有する能力の把握に努め、計画に反映できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向と能力を踏まえた介護計画を作成する様つとめている。	本人・家族の意向やアセスメントシートを基に介護計画を作成しています。日々の記録や職員の意見を聞いてモニタリングを行い、サービス担当者会議で検討して、6ヶ月毎に見直しています。状態に変化があれば随時見直し、看護師、医師の意見も反映させています。介護度が変わった時に再アセスメントしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報がスムーズに共有できるような工夫をし、ケア提供方法の見直しや計画の見なおしが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望があれば、買い物や展覧会などの催しものに参加し、気分転換が出来るように努めている。		

グループホーム ゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの参加を呼びかけ、催し物などを行い、余暇を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を重視し、家族にも協力してもらいながら適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医との関係づくりもおこなっている。	入居時に今までのかかりつけ医の継続が出来る事や協力医について説明しています。かかりつけ医の受診は家族や職員が対応し、専門医は職員が受診支援しています。看護師が職員として配置され、看護記録や健康チェック表などで医療機関と情報交換しています。協力医は2週間に1回の往診があり、24時間主治医と連絡が取れるようにしています。月1回歯科や口腔ケアは、必要な方が診てもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が安心して医療的な支援を受けられるよう、施設内の看護師だけでなく、かかりつけ医や訪問看護師との情報交換や関係づくりをおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、病棟の看護師、担当医等家族にも協力してもらい、安心して治療できるよう関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合は、家族を含め、主治医と十分な話し合いを行い、チームで支援できるよう取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りについてホームとしての方針などを説明し、同意書をもらっています。早い段階から医師が重度化の状況などを家族に伝え、意向を都度確認しています。管理者は、看取りについて行政に相談したり、看護師が外部の研修に参加し、職員に伝達研修を行い、外部から講師を招いて勉強会をするなど看取りを受け入れる方向で話し合われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応について、施設内にて訓練を実施しており、実践力をつけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の避難方法について、防災訓練等で迅速に安全に避難できるよう取り組んでいる。	年2回の消防訓練は、消防署の協力を得て行う訓練と自主訓練を昼夜を想定して実施しています。通報や初期消火、避難誘導などの訓練を行い、利用者も参加しています。ホームにAEDを設置し、使い方を全職員が学んでいます。	避難訓練の取り組みを運営推進会議の議題に挙げ、地域住民の参加を得られるような取り組みの機会にされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個々の状態や能力に応じ、声掛けや対応を行っている。その際にその方の尊厳やプライバシーを損ねることがない様努めている。	年1回ホームで接遇研修を行い、全職員が参加して一人ひとりの尊重やプライバシーについて学んでいます。名前は姓で呼ぶ事を基本とし、排泄介助時や入浴介助時のプライバシーへの配慮や、言葉かけは、声のトーンに気をつけ穏やかに対応するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や自己表現の困難な利用者に対しても声掛けや表現等の観察により本人の意思を汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその方本人のペースで1日を過ごして頂ける様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の能力に応じて必要な手伝いをしながら、その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じ、職員と一緒に準備や後片付けをしてもらっている。	利用者の希望を聞いて業者が献立を立てます。食材は2日から3日ごとに買い物に行き、利用者と一緒に行く時もあります。利用者は、皮剥きや配膳、下膳、テーブル拭きなど、できることをしています。干し柿作りは、利用者の得意なことをする場として活かされました。寿司屋へ外食に行ったり、授産施設から来るパンの販売を楽しみされ、全員が選んで購入しています。食事介助や見守りを行いながら時には一緒に食べ、会話をしながら食事が楽しめるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個人記録に記入し、個々の体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方であっても必要に応じて仕上げ磨きをおこなったり、義歯などの管理も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて出来る限りトイレで排泄できるよう、その方の排泄パターンや訴えのできない方でも尿意・便意等の表現を見逃さないように努めている。	個々の排泄の記録により、排泄のパターンの把握に努め、サインや表情等を見落とさないように心掛け、早い目の声かけや誘導をしています。家族の希望も含め、紙パンツから布の下着に変更し、トイレで失敗なく排泄できるようになった方もいます。紙オムツやパッドの使用を減らし気持ち良く過ごしてもらえるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や植物繊維などを意識して摂取してもらい、レクレーション内での体操などにも参加してもらうなど取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員による曜日や時間の誘導をする事もありますが、出来るだけ本人さんの希望を優先する様に努めている。	毎日入浴の準備を行い、週2回以上を目安にして朝から夕方時間帯に入浴を支援しています。毎日入浴される方や朝からゆっくり一人で入りたいなど、利用者の希望を大切にして入浴してもらっています。入浴剤を使用し、利用者の好みの石鹸を使ってもらうなど、入浴が楽しめるように支援しています。拒否される時は、無理強いをせずタイミングや声かけの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースでのソファや椅子、個々の部屋で自由に休息をとってもらっている。夜間は室温や寝具をその時その方に合った状態で気持ちよく眠れるよう取り組んでいる。また睡眠の状態についても確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬について理解できるよう情報を共有したり、各自がすぐに確認できるように準備している。又その方の状態や症状に応じた服薬や服薬後の状況の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が過ごせるように役割を持ってもらったり、その方の好きな活動に取り組めるよう、また気分転換にもなるような活動が提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様から希望があれば、できるだけ戸外に出かけられるよう支援に努めている。	日々の散歩は出来ていませんが、毎日のゴミ出しや野菜の水やり、草抜き、玄関前で日向ぼっこをするなど、外気に触れ気分転換を図っています。趣味の書道を見に地域の文化会館に出かけたり、買い物や本屋など希望を聞いて外出できるよう支援しています。季節ごとに桜の花見や紅葉を見に行ったり、足湯に出かけています。	

グループホーム ゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人は、ご自身で管理されています。受診料や薬代などは、ご家族様の希望もあり、事業所で管理し支払いなどを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話をかける手伝いをしたり、また家族の知人からの電話をとりついでたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の立地や構造上、不快な音や光は除くことが出来ない部分もあるが、出来るだけ利用者の不快感を減らせるよう努めている。	利用者と一緒に作成した季節の作品やひな祭りの飾り物、生花などが玄関やリビングに飾られ、季節が感じられます。ソファやテーブルの配置を工夫し、職員も利用者の側に寄り添いながら台所で食事作りをしている音や匂いのする家庭的な雰囲気の中で過ごしています。和室は、利用者が休養される時に使用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや低めのテーブルを置き、自由に過ごしてもらえるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の部屋には、本人にとって馴染みのものや大切なもの、写真などを飾ってもらっています。本人にとって安全に過ごしやすい環境を作れるよう取り組んでいる。	ベットやクローゼット、洗面台、作りつけのカウンターが備え付けられています。利用者は、仏壇や筆筒、家族の写真などを持って来られ、大切にしていた物や品々などに囲まれながら安心して過ごされています。趣味の書物を読んだり、カウンターから見える景色を眺めながら毎日写経を書くことを生きがいにして過ごすなど、その人らしく過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や手伝いの必要な部分、見守りの必要な部分を把握し、その人に応じた行動を安全に行ってもらえる様取り組んでいる。		